

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬までに個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果と分析

#### 国語



#### 〈概要〉

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、11問と13問（14問中）を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、9問以上の正解者が8割以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

#### <話すこと・聞くこと>

- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い自分の考えをまとめる問題では、正答率が全国値より上回っているものの、他の問題と比較すると正答率は低い。異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめる機会を増やす。

#### <書くこと>

- ・文章を読み、条件に合わせて（60字以上100字以内）まとめる問題では、無解答の児童の割合が高くなっている。書くことを苦手と感じている児童にも、簡単で短い文章から少しずつ書けるように指導していく。

#### <読むこと>

- ・登場人物の相互関係を把握し、気持ちや行動を捉える問題の正答率が特に高い。本校の児童は調査結果からうかがえるように、読書をするのが好きな児童の割合が高い。ふだんからさまざまな文章に親しんでいることも正答率の高さにつながっていると考えられる。

### <言葉の特徴や使い方に関する事項>

- ・「反省」の「省」、「録画」の「録」などにおいて間違いが見られる。今後も、まぎらわしい漢字などは特に注意をして定着を図っていく。

### <質問項目から>

- ・「国語の勉強が好きですか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に答えた児童の割合が全国値を上回っている一方で、「当てはまらない」と答えた児童の割合も全国値を上回っている。国語の勉強に対する関心、意欲を高める工夫を指導に取り入れていく。

## 算 数



### <<概要>>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、13問（16問中）を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、10問以上の正解者が75%以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

### <数と計算>

- ・記述式問題では、正答率が全国値より上回っているものの、他の問題と比較すると無解答率が高い。単に計算の仕方を覚えるだけでなく、文で説明する機会を増やす。

### <図形>

- ・長方形の構成や性質については9割の正答率があり、理解している児童が多いが、ひし形になると正答率が約20ポイント下がっている。

### <変化と関係>

- ・知識・技能を問う問題では、正答率が全国値を上回る。また、無解答率も全国値より低く、何かしら解答を記入したり選択したりすることができている。
- ・思考・判断・表現を問う問題では、正答率が全国値を上回っているものの、記述式問題では無解答率も全国値を上回る。

### <データの活用>

- ・他領域に比べ、無解答率が低い。
- ・目的に応じて、データの特徴を捉え考察することができている。
- ・グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができている。

### <質問項目から>

- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか」という問いには、9割以上の児童が肯定的な回答をしている。教科書の練習問題やプリント学習だけにとらわれず、自分たちの生活につなげた課題を設定したり、単元の終わりにある発展問題も解いたりしていく。
- ・「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」という問いには、8割が肯定的な回答をしている。また、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」という問いには、肯定的な回答が9割近くをしめている。児童に考え方を説明させたり、他の児童の考えを代わりに説明させたりするなかで、論理的に筋道を立てて思考する機会を増やす。

## 理科



### 《概要》

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、16問（17問中）を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、10問以上の正解者が75%以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

### <エネルギー>

- ・日光が直進することについては、正答率が全国値より上回っているものの、正しく理解している児童は4割程度にとどまっている。
- ・問題に対して友だちがまとめた内容とそのわけを実験の結果を基にして分析解釈し、自分の考えを記述できている児童は半数程度で、約1割の児童が無解答であった。

### <粒子>

- ・8割以上の児童はメスシリンダーという器具を理解し、正しい使い方を身に付けている。

### <生命>

- ・8割程度の児童が、自分で行ったテントウムシの観察で収集した情報と追加された情報をまとめ、検討して、自分の考えをもち、その内容を記述できている。
- ・昆虫の育ち方や食べ物など提示された情報を複数の視点で分析解釈して、自分の考えをもつことができる。

### <地球>

- ・9割程度の児童が、冬の天気と気温の変化を基に与えられた問題を分析して理解し、自分の考えをもつことができている。

### <質問項目から>

- ・9割近くの児童が理科の授業は大切だと考え、学習に意欲的に取り組んでいる。
- ・自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てて学習を進め、結果からどのようなことが分かったのかをしっかりと考えている児童が8割程度いる。今後も自分の考えを根拠を示しながら記述できるよう、日頃の授業において実験観察の予想や結果の考察等を自分の言葉で書けるようにスモールステップで指導していく。また、複数の情報を関係付けながら多面的に分析して考察できるようにするため、複数の情報を収集して児童同士が共有し、話し合う学習活動を重視します。
- ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと考えている児童は全国値をやや上回っているものの4割を切る結果となっている。
- ・理科で学習したことは将来社会に出たときに役立つと考えたり、普段の生活の中で活用しようと考えたりしている児童は7割にとどまっている。学習を通して学んだ知識を実際の自然や日常生活に生かせるように授業を改善し、まずは理科学習を身近なものとして興味を持たせます。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析



- 「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことをまもっていますか」という質問に対して、「持っていない」と回答した児童が、

全国平均と比べて多い。持っている児童については、家の人と特に使い方の約束なく自由に使用していたり、約束があっても守れていなかったりする傾向がみられる。使用時間に関しては、平日1日につき2時間までの児童が多くみられる。動画視聴についてもほぼ同じ傾向である。

- いじめについては、いじめ予防授業の取り組みを始めて3年目ということもあり、「どんな理由があってもいけないことだと思う」の質問の回答は、「当てはまる」が80%、「どちらかといえば当てはまる」が10%であり、90%の児童が、いじめについてはどんな理由があってもやってはいけないことであるという認識を持っていることがわかる。しかし、4%の児童は「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」という結果になった。理由があれば、いじめをしてもいいわけではないことを、今後も指導していく必要がある。
- 「人の役に立つ人間になりたい」「友だちと協力するのは楽しい」に肯定的な回答が多く、困っている人の手助けをしようとする児童が多いことが伺える。その一方で、自分と意見が違ったときに、相手の意見について考えることは楽しくないと思っている児童も40%近くいる。
- 家で自分で計画を立てて学習したり、わからないことがあったら自分で自主的に調べたりする児童が多い。読書を好きな児童も多く、学校の図書への貸し出し、学級文庫の使用、図書館の利用が多いことが予想される。
- 週1回以上利用したと実感している児童は9割程度おり、今後も授業の中で日常的にタブレットや電子黒板を使っていく場面を増やしていく。また、「学校で、学級の友達と意見交換をする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか」という設問に対して、子どもの受けとめとして使用頻度がやや少ないという傾向がみられる。意見を交流したり自分の考えを発表したりする授業で、有効な場面では積極的にICT機器を活用できるようにしていく。
- 5年生までに受けた授業で、「自分の考えを工夫して発表する」「新しいものを創り出す活動を行う」については肯定的な回答が多かった。



### 3. 今後の学力向上の取り組み

教科に関する調査では、「記述力」が課題であることがあらためて浮き彫りになりました。結果を踏まえ、まとまった分量の文を書くこと、必要な言葉を落とさずに書くことを重視していきます。また、それぞれの教科では、定義づけられた用語を使って学習をします。用語を正しく理解し、文の中で使えるように指導していきます。

また、生活環境や学習習慣等の調査からは、何事にも真面目に取り組む姿勢が見える反面、多様なものを取り入れ自分の成長につなげる視点が弱い傾向があります。本校の教育目標「自主協同」の「協同」にあたる部分ですが、今後学校行事等を通して、友だちやさまざまな人とのつながりを大切にしていきます。

本調査から見えてきたさまざまな課題解決に向けては、ご家庭と学校との連携が大切です。今後とも保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。